

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

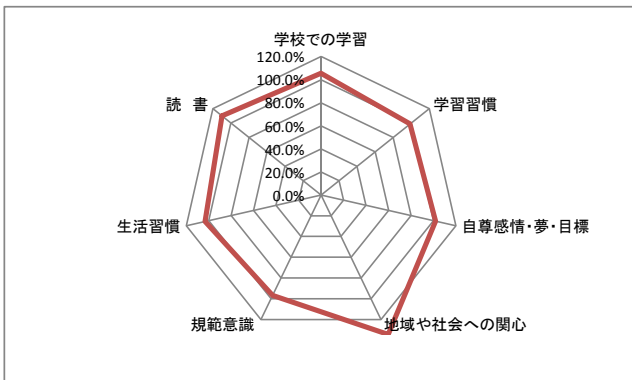
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	・全体的には全国平均正答率をやや上回っていた。「話すこと・聞くこと」の正答率がやや高かった。 ・インタビューの目的に応じて、質問を工夫する問題の正答率が高かった。 ・目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題の正答率がやや低かった。	上回っている
算数	・全体的に全国平均正答率をやや下回っていた。特に「数量関係」の領域の問題が正答率をやや下回っていた。 ・示された除法の式の意味を理解する問題の正答率が高かった。 ・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する問題の正答率がやや低かった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



・ 地域や社会への関心が高く、地域行事に参加する児童が多い。
・ 一日あたりの読書している時間が全国平均よりやや多い。また、読書が好きと答えている児童の割合も全国平均より多くなっている。
・ 家で自分で計画を立てて勉強している割合がやや少なく、学校の授業以外の1日の学習時間も短い児童が見られる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

一時間の授業時間において自分の考えをもち、交流し合う時間を設定する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

自主学習や家庭学習チャレンジハンドブックの活用等を行い、生活習慣や学習習慣の見直しを図るように家庭と連携する。